

# 災害列島に生きる

## ……「共に生きる街づくり」

2016.11/5.6 名古屋市消費生活フェア出展報告    canレポーター 大村昌宏



2016/11/5  
オアシス 21  
Can ブース

CANは、栄オアシス 21 で開催された名古屋市消費生活フェアにブース出展しました。

初日 11/5(土)は、「ハザードマップを見たことありますか?」とご自宅や勤務先の水害や地震のリスクや避難先の確認を呼びかけました。その際、アンケート「共に生きる街づくり 災害列島に生きる」を実施し 111 名の方に回答いただくことができました。

二日目 11/6(日)は、子どもたちを対象にしたワークショップ。災害スゴロクで被災してから避難するまでを想定体験してもらいました。ただしこのスゴロク、すごくマニアックで参加者は没入して一喜一憂なのですがなにせ参加者が限られる。そこで急遽「笑顔を描こう」のコーナーを設け、親子で災害時にこそ「笑顔が元気をくれる」と呼びかけました。

\* 会場アンケートの結果を文末に掲載しました。お答えいただいた皆さんありがとうございます。

# You あなたは 備えていますか？



パネル展示では、災害は必ず起きる「あなたは備えていますか」と問いかけました。周期的に発生しているプレート型の巨大地震。今後20年～30年の間には必ず発生すると言われていました。また気候変動、地球温暖化の進行により水害の頻度が増加しています。誰もが「被災者になる」、あなたは備えていますか？



被災した時に問われること。「自分の身は自分で守る」家族で助け合うこと。発災時のちょっとした判断の違いが生死を分けます。「まず自分が生き

残る」こと。そして周囲の方と助け合うこと。「国が悪い」「市が悪い」と言っていては始まりません。災害においてはまず自らの「自助力」を高めることです。

会場アンケート「水害や地震への備えについてご家族で話し合ったことがありますか？」の質問に6割近くの方が「話し合った」と答えましたが、4割近くの方が「話し合ったことがない」と答えました。

「共助」。ご近所さんとの助け合い。地域、協同組合で、助け合います。

会場アンケート「いざという時、たよりになるのが共助(ご近所、地域のみなさんとの助け合い)」という問いに、「お互いさまと日頃から挨拶をかわし親くなるよう努力している」が6割。知っているがあまり親しくしていないが3割。ご近所や地域の方のことはあまり知らない、疎遠だが1割いました。

「公助」、行政のやれることは限られます。しかし的確な防災情報の提供や避難所の設置、運営など行政が果たすべき役割は大きいのです。

会場アンケート「災害についての行政からの情報提供が的確に行われていると思いますか」の問いに、6割の方が「分かりにくく不十分だ」と回答。分かりやすく的確に行われているが4割に留まりました。

「弱者への配慮」も重要です。高齢者や障害者、妊婦さん、小さなお子さんを持つ家族への配慮、支援が大切です。「助け合い」「お互いさま」の気持ち。その土台には「信頼関係」の醸成が大切です。

災害時、町内会や住民自治会の役割が重要ですがその体質改善も必要です。戦争中の互いを監視しあう「隣組」のような体質のままでは信頼関係は育まれません。日本国憲法では「個人を尊重する」と定めています。プライバシーを大切にしながら「お互いさま」と助け合う住民の自治組

織こそが力を発揮します。「自治」とは自ら治めること。互いに自覚しあい共同して「地域力」を發揮できるようにしていきたいものです。

住民自らが自助力を高め、日頃から行政に対し「何を支援してほしい」「整備してほしい」と対話していくことが肝心です。「お役所まかせ」では「守れる命」も守れません。



会場アンケートで「お住まい周辺のハザードマップを見たことがありますか？」との質問に7割近くの方が「見たことがある」と回答したのに対し、「そもそもハザードマップって何のこと？」が1割強あったのは気になることです。

東海豪雨の記憶を思い出し、自宅周辺のハザードマップを開いて「どこに逃げたらいいのか」とつぶやき「道一本隔ててこんなに浸水のしかたが違う」とビックリする方も。中川区や港区、南区の方は、自宅の周辺が3～4mの浸水になることを知り、「避難ビルをもっと増やして」と言われる方も。



特に水害時の地下街の浸水・水没のリスクをお知らせしました。名古屋市西区の名古屋駅周辺には地下街が広がっていますが、もともと低い地域であることから水害リスクの高い地域です。「水没リスク」への備え、対策が急務です。また鉄道が不通になった際の、帰宅困難者の発生に備えなければなりません。

リニア中央の建設工事が始まっています。地下30m～40mの地下トンネルの水没対策は大丈夫でしょうか？

地球上でもっとも地殻変動が活発な地域、日本列島。4枚のプレートが押し合いへしあいしている「変動帯」にあります。

地震では、家具が凶器になります。「テレビやタンスを固定していますか?」と問いかけると、まったくしていなという方がいました。

食料については、食べながら備える「ローリングストック法」を紹介しました。

会場アンケートでの「いざという災害に備えて水の備蓄をしていますか?」問いに、1週間分以上備蓄が7%、3日以上備蓄が54%、まったく備蓄していないが39%でした。4割近くの方がまったく水の備蓄をしていない現実。いざという時、これでは命を繋げません。あなたのお宅では大丈夫ですか?

避難所の収容人数は限られています。浸水等で自宅が水没して使えなくなるのは別ですが、自宅での生活が一番。補強したり備蓄することによりその可能性を高めたいものです。

気候変動、温暖化対策を実施するパリ協定についてお知らせしました。

「共に生きる街づくり」災害列島に生きる アンケート結果

CAN (消費者行動ネットワーク)

CANは、11月5日(土) 栄 オアシス21で開催された名古屋消費生活フェアにおいて、「減災」についてのブースを出展しました。  
その際、減災についてのアンケートを実施し111名の方から回答いただきました。  
以下、集計結果です。

実施日 2016年11月5日(土) 11時~16時  
場所 栄 オアシス21  
イベント名 名古屋消費生活フェア  
回答者数 111名

「共に生きる街づくり」災害列島に生きる」と題してアンケートに回答いただきました。

1. お住まい周辺の「ハザードマップ」を見たことがありますか？ 111

- a. 見たことがある。 68% 76
- b. ハザードマップは知っているが、住んでいる地域のものは見たことがない。 19% 21
- c. そもそもハザードマップって何のこと？ 13% 14



2. いざという災害に備えて「水の備蓄」をしていますか？ 102

- a. 1週間分以上の水を備蓄している。 7% 7
- b. 3日以上の水を備蓄している。 54% 55
- c. 水の備蓄はまったくしていない。 39% 40
- d. その他 7% 7



3. まずは「自分の命は自分で守る」(自助)が重要です。水害や地震への備えについてご家族で話し合ったことがありますか？ 107

- a. 話し合ったことがある。 58% 62
- b. 話し合ったことがない。 37% 40
- c. その他 5% 5



話し合ったことがある。 話し合ったことがない。 他

4. いざという時、たよりになるのが共助(近所、地域のみさんとの助け合い)です。 108

- a. 「お互いさま」と日頃から挨拶をかわし親しくなるよう努めている。 63% 68
- b. 知っているがあまり親しくない。 26% 28
- c. 近所や地域の方のことはあまり知らない、疎遠だ。 11% 12



5. 災害についての行政からの「情報提供」が的確に行われていると思いますか？ 104

- a. 分かりやすくて的確に行われている。 40% 42
- b. 分かりにくく不十分だ。 60% 62

\* 防災・減災について、公助(行政)に、期待することを自由にお書きください。

何でも分かりやすくしてほしい。  
もう少し分かりやすく説明してほしい。  
適切な情報をローカルに知らせしてほしい。  
情報をこまかく連絡する。  
もっと分かりやすく情報を流してほしい。  
危険がせまったとき確実に情報が届くようにしてほしい。  
事前に対処出来る対策と情報の提供を早めを知る事が出来ればと思います。

地震と水害の避難所の区別を明確にしてほしい。  
避難所の区分をきちんと周知すべき。小学校、中学校(要援護者)  
避難した時の助け。  
しょうがい者用の場所を確保してほしい。

学校で学ばせてほしい。  
子どもが分かるように。

災害時の下水(トイレ)、水道の使用法(小学校に備品としてある物)の利用方法を中高生に  
トイレの設置等、わかれば良いな...

協力できる態勢を作りたい。  
集合住宅での防災訓練など義務にでもなっていればと思う。

地域住民に「自助」をPRすること!! (自分のことは自分です。)

「行政からの情報提供」分かりやすいけどなかなか準備する行動が伴わないです。

自主防災に参加しています。  
いざという時に集まる施設の場所をしっかりと把握したい。  
防災、減災は、心構えが大切。  
水は大切だと思います。



2016/11/6 栄  
オアシス21can  
ブースにて

